



TOPICS

- ・事務所ニュース
- ・事務所からの連絡
- ・From Project / 岩間邦夫 Project Manager
- ・ボランティア通信 / 岩岡未佳 隊員
- ・着任挨拶
- ・離任挨拶
- ・My Favorite / 宮家佐知子 専門家



事務所ニュース

JICAによるDDR支援の方向性を検討



DDR（武装解除・動員解除・社会復帰）における専門家派遣支援を検討するにあたり、8月2日～19日の約2週間にわたり、事前調査が実施されました。北部スーダンにおいてDDR実施を担う担当機関、北部スーダンDDR委員会（NSDDRC）及び同機関を支援するUNDP等の関係機関からの聞き取り、また東部事例の検証を行うためカッサラでのフィールド・トリップなどを実施するなかで、DDRにおける現状や課題、またDDRCの組織能力などについて情報収集を行い、今後のJICAの支援の方向性について協議し、合意形成が行われました。DDRCの特に社会復帰に重点を置いた組織能力強化、そして、特にニーズのある南コルドファン、青ナイル州、そしてカッサラにおける職業訓練や生計向上などを通じた具体的な除隊兵士の社会復帰の促進がJICAには期待されています。

詳細はJICA事務所担当、西本まで。

ロシナンテスによる母子保健プロジェクト開始！



8月5日、ガダーレフ州シェリフ・ハサバラ地域において、特定非営利活動法人ロシナンテスによる母子保健サービス強化プロジェクトの開会式が開催されました。本プロジェクトは、JICA草の根技術協力事業を通じた3年間（2010年4月～2013年3月）のプロジェクトであり、村落助産師を通じた母子保健サービスの強化、コミュニティにおける産前・産後健診と乳児健診の改善を目標としています。開会式は、住民の母子保健改善への意識を高めてもらうことも兼ねて、子供たちによるプロジェクト・ソングの披露、子供たちが参加して考案したプロジェクト・ロゴの発表、また、母子保健をテーマにしたユーモアのあるドラマの発表など、参加型であり、かつ、様々な工夫が施された開会式でした。開会式には、和田在スーダン日本国大使、エルサディク・ガダーレフ州保健大臣にもご出席いただきました。

詳細はJICA事務所担当、西本まで。

職業訓練強化プロジェクトR/D署名！



8月29日、JICA及び労働省・職業・徒弟訓練評議会(SCVTA)との間において、職業訓練強化プロジェクトのR/Dの署名式が行われました。本プロジェクトは、2010年10月頃から3年間という予定で実施され、産業・労働市場のニーズに沿った職業訓練コースが提供され、卒業後訓練生の雇用機会が改善されるよう、SCVTAによる職業訓練サービスの提供能力を強化することを目指しています。また、女性、若者、障害者、そして除隊兵士などの社会的ニーズにも対応できるよう組織能力を強化することも本プロジェクトで取り組むべき重要な課題としています。

詳細はJICA事務所担当、西本まで。

事務所からの連絡

9月の予定

- 9月17日(金) 草の根技術協力事業力・ロシナンテス母子保健サービス強化プロジェクト巡回指導（～9月23日）
- 9月17日(金) 西日本新聞社 取材訪問（～9月23日）
- 9月19日(土) ダルフール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト 保健分野・指導員育成研修(ダルフール指導員向け)
- 9月28日(火) 木村亮一 隊員 〈青年海外協力隊・自動車整備〉 着任
- 9月28日(火) 井堂有子 専門家 〈ダルフール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト・チーフアドバイザー〉



いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見を綴っていただくコーナー。
今回は、8月5日にプロジェクト開始式を行ったばかりの草の根技術協力事業・ガダーレフ州における母子保健強化プロジェクト、ロシナンテスの岩間プロジェクト・マネージャーです。

しんどいミーティング

NGOの活動にとってミーティングはとても重要です。情報を共有する場であり、共通の問題意識を育てていく場であり、意思決定を行う場でもあります。また参加者にとってのキャパシティ・ビルディングの場ともなります。ミーティングでの発言の頻度や内容から、参加者の成長過程が見て取れることもあります。

最近日常の活動の中でミーティングの機会が増えています。ロシナンテスの場合、事務局が首都のハルツームと活動地の州都ガダレフの2カ所にあり、また活動地は州都から車で1時間ほど離れたハサバラ村にあります。ミーティングはハルツーム事務所の日本人スタッフで毎月1回、参加者は少ない時で3~4人、多い時は10人近くになります。ガダレフ事務所ではローカルスタッフ含めて2~3人でほぼ毎週行います。またガダレフ州の保健省ともほぼ毎月です。そしてハサバラ村では活動拠点である診療所のスタッフ10人ほどと毎月、またハサバラ村の村長グループ15人ほどのメンバーとも大体毎月行っています。



ハサバラ村のクリニック

これらのミーティングの中で比較的楽な気持ちで臨めるのは、ハルツーム事務所での日本人スタッフとのミーティングです。自分が入った最初の頃は人数も少なく発言する人間も限られていました。しかし最近では人数も増え、回数を重ねてきて議論も活発になり、進行も皆慣れてきて着実に議題が消化されていきます。

一方でしんどかったのはハサバラ村でのスーダン人とのミーティングです。村長グループとのことです。私が出席した村長グループとの最初のミーティングは2008年の5月、村での女子学校建設について話し合うためのものでした。話し合いを始めて1時間も経たない内に建設場所をめぐる村人同士が喧嘩になり、あっと言う間にみな部屋を出て行ってしまいました。結局、日を改めてミーティングの場を持ち、そこには州の教育省からも担当者に参加してもらって、何処に建設するのが適切なかを客観的な視点で意見してもらい、ようやく全員で合意に至ることが出来ました。



あっと言う間に解散してしまった後の仕切り直しミーティングの様子

ガダーレフ州シェリフハサバラ村における
母子保健サービス強化プロジェクト
プロジェクト・マネージャー 岩間邦夫



最近の村長グループとのミーティングの様子

始めの頃はこういった様子で、なかなかミーティングにもなりませんでしたが、それでも話し合いを続け、決めたことを実行していく中で、ミーティングを通して物事が進んでいくということが少しずつ理解されてきているのでしょうか。最近ではミーティング中はみな大人しく最後まで座り、予定していた議題を全て話し合えるようになってきています。それでも、ミーティングで決めたことが実行に移されないということはいまだにありますが、そんな時はあのあっと言う間に解散してしまったミーティングを思い出して、「あの頃に比べたら随分マシになったよな」と自分をなだめたりしています。



岩間邦夫

いわまくにお／北海道出身。NGO Rocinantes駐在副代表兼カントリー・プロジェクト・マネージャー。JICA草の根技術協力事業であるガダーレフ州ハサバラ村での母子保健事業では、プロジェクト・マネージャーを務める。スーダン生活での息抜きは、ハルツームでたまにする、テニス。

岩岡未佳 隊員(栄養士・イブンシーナ病院)の1日

6ヶ月の活動を終え、8月10日に帰国した岩岡未佳隊員。
帰国前、岩岡隊員の活動先であるイブンシーナ病院栄養科を訪れました。



首都ハルツームにあるイブンシーナ病院栄養科にて、日々同僚栄養士のレベルアップに務める岩岡隊員。日常業務を補佐しながら、栄養科全体の業務改善を行うことが主な活動です。

患者さんへの食事の配膳は朝食が10時で、昼食が14時。医師と栄養科で作成された献立が、栄養科併設のキッチンで調理されます。同僚は10名の栄養士と5名のキッチン・カフェテリアスタッフという、にぎやかな職場です。

この日は、同僚栄養士とともに、入院している患者さんの食事状況をチェックしにいくというので、同行させていただきました。



食後の患者さんの元を訪れる2人



この日の朝食メニュー

写真にも写っているのが、同僚栄養士のリムさん(24歳)。学校を卒業したばかりで経験が浅い彼女ですが、素直でとてもやる気がある栄養士さんであり、栄養価指導などまだまだ一緒に活動して教えたいことがたくさんある、と岩岡隊員は話します。



病棟巡回中、2人は1冊のファイルを確認しながら患者さんの話を聞き、食事の様子を確認し合っていました。

病室(6人部屋)ごとに各患者さんの配膳食に関する注意事項を記載したファイルです。以前は1冊のノートに表のようにして書かれてあったものを、岩岡隊員の提案でこのように一目でわかりやすく整理されたものに移行しているそうです。

病棟巡回から栄養科に戻り、科長のマダム・ナワールにお話を聞きました。

広報: こんにちは。こちらの栄養科は人数も少なく、とても活気があるように見えますが、どんなことを改善したいと思っていらっしゃるのですか？

マダム ナワール: スタッフのマネジメントというのでしょうか。遅刻や早退、欠勤をするスタッフが多く、栄養士のレベルアップももちろんですが、科全体のマネジメントを改善できたらと考えています。ミカ(岩岡隊員)は科のスタッフを対象に、仕事に対する意識アンケートを行ってくれました。これは、スタッフ自身がこうした問題に対して目を向ける良いきっかけになったのではないかと考えていて、感謝しています。

広報:なるほど。“よそもの”の視点をもった、心強い存在なのですね。

マダム ナワール:はい。もう数週間で彼女は日本へ帰国してしまうでしょう。ふだんは外で会議やワークショップ参加のために病院を空けることも多いのですが、彼女の観察や分析をいろいろ聞きたいと思って、いまはなるべくわたしもオフィスにいるようにと心がけているんです。

今回の訪問を通して配属先の方々とお話をする中で、日頃から配属先の人々との人間関係をしっかり築くことが活動を行う上でとても重要であるということを確認しました。それを表しているように、岩岡隊員のデスクのまわりは、いつも同僚たちでいっぱい。ときにまじめな話、ときにわらい声の絶えない職場でした。

取材の最後に、野菜不足になりがちな在スーダンJICA関係者へ、ハルツームで手に入りやすい野菜を使った手軽なメニューを聞いてみました。

和風モロヘイヤパスタのソース

材料(2人分):

モロヘイヤ/1束

ベーコン/2切

ニンニク(大)/1かけ

油/大さじ1

ほんだし/少々

醤油・大さじ1/2

塩/ひとつまみ

こしょう/少々

ゴマ/お好みで

※調味料はマギーのみでも可

(洋風になる)

作り方:

1. モロヘイヤを洗いながら葉をとりわける。(葉だけ使用)

2. 1を細かく(千切り位に)切る。

3. ニンニクはみじん切り、ベーコンは1cm幅に切る。

4. 熱したフライパンに油を敷き、ニンニクをきつね色になるまで炒めたらベーコンを加え、更に炒める。

5. 4にモロヘイヤを加え更に炒める。

6. 水を少々加え少し煮たて、自分の好みの固さのところで調味料で味を調え出来上がり。

(水を多めにするとスープパスタみたいになる)



モロヘイヤ豆知識



モロヘイヤの原産地はエジプト。

どんな薬を飲んでも治らなかった王様の難病がモロヘイヤスープで治ったことからアラビア語で『王様の野菜』と言う意味の『ムルキーヤ』と呼ぶようになったのが語源といわれています。それゆえに栄養価は高く、ビタミンはもちろんミネラルも多く含まれます。ビタミンAの吸収を助けてくれるのが脂質。そのためただ茹でるのではなく油を使って炒めたり、茹でたら油入りのドレッシングで和えると吸収率アップ。鉄分の吸収を助けてくれるのがビタミンC。モロヘイヤはこの両方を兼ね備えています。また良質なたんぱく質も鉄分の吸収を助けてくれるので肉(ここではベーコン)や魚・卵・乳製品・大豆も鉄を多く含む植物性食品(ほうれん草や小松菜)と吸収率を助ける上で相性良いです。

着任 挨拶

今井史夫 JICAスーダン事務所次長

スーダンの関係者の皆様、8月31日に阿部次長の後任として着任いたしました今井史夫（IMAIFUMIO）と申します。アフリカでの勤務は約20年前のケニア以来ですし、イスラム圏は初めてなのでどうぞ御指導の程よろしくお願い申し上げます。前部署が協力隊事務局のアフリカ・中東課だったこともあり、スーダンの様子はいろいろと聞いてはいたのですが、実際に来てみると、聞いていたとおり、少々暑いものの、少なくともハルツームはかなり治安が良さそうで、人々も親切で、一安心しております。まだわからないことだらけですが、随伴した家族5人とともにできるだけ早く現地に慣れ、任務を全うしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

離任 挨拶

池田精寿 専門家 〈ダルフール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト〉

PWCおよびJICAスーダン関係者のみなさまのおかげで、無事に任期を全うすることができました。ありがとうございました。また、任期中は豆とカルカデのおかげで太ることなく、乗りきれました。健康第一！



戸田陽一郎 専門家 〈ダルフール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト〉

2008年11月から職業訓練開発調査並びにダルフールプロジェクトの職業訓練分野担当として延べ約1年8ヵ月に亘り

スーダンに関わってきました。自らの業務がスーダンの人々（特に若年層や除隊兵士、IDP）の生計向上に少しでも貢献できればと願うところです。

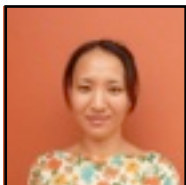
またJICA事務所職員をはじめ、専門家、JOCVの方々には公私共々、大変お世話になりました。スーダンでの生活を楽しみ過ごせたこと、大変感謝しております。機会があればまたスーダンに戻ってきたいと思いますが、その時まで皆様どうぞお元気で！



高橋典子 在外専門調整員

在スーダン日本国大使館の派遣員卒で、JICAスーダンへ仲間入りし、通算3年弱のスーダン勤務を終了いたしました。担当プロジェクトが尽くお先真っ暗(or灰色?)になるという、所内でのジ

クスを背負う一方、日本語と格闘しながらの広報業務とおして皆様にお会いできたことは、紙面上では学べない現場の声を聞き取る貴重な経験となりました。JICAスーダンでの出会いに感謝いたします。9ヶ月間と短期でしたが、本当にありがとうございました。また世界の開発現場でお会いする日まで、マアッサラマ！



岩岡未佳 隊員 〈青年海外協力隊・栄養士〉

2010年2月から半年間イブンシーナ病院で栄養士として活動させていただきました。スーダンという未知の世界で現地スタッフと共に活動出来た事により多く

の経験と刺激を受ける事が出来ました。そして多くの方々に支えられている事を実感すると共に、このような機会を与えていただいた事に対し感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。この貴重な経験を少しでも多くの形で還元出来たらと思います。そして同僚達の無限の可能性に期待しつつ、再会出来る日を楽しみに自分磨きに精を出したいと思っております。



木下由佳 隊員 〈青年海外協力隊・理学療法士〉

6か月間皆様にはお世話になりました。職場の人々もハルツームの人々も穏やかで、活動のしやすい環境でした。現状のスーダンでの障害者の置かれている状況

はとても勉強になり、そして心を痛める日々でした。しかし半年ではもちろんスーダンのリハビリテーションを知るのには短すぎました。今後も自分にできることを考えていきたいと思っております。ホームページ等で皆さまのご活躍情報楽しみにしています。ありがとうございました。

My Favorite

セナールの揚げ魚定食 宮家佐知子 専門家 〈マザーナイルプロジェクト〉

マザーナイルプロジェクトは連邦保健省での活動を行うハルツーム滞在メンバーとモデル地域であるセナール州に滞在して活動を行うセナール滞在メンバーと2チームに分かれています。娯楽が少ないハルツーム生活以上に娯楽が少ないセナール州での生活。そんなセナール州での生活に潤いをもたらす、とっておきのレストランをご紹介します。場所はセナール州セナール市内のとあるマーケット。マーケットの中をどんどん進んでいくと、何やら油のにおいがしてきます。そして、群がるスーダン人男性達。なんだろうと近づいてみると、そこには揚げ魚定食屋さんが立ち並んでいます。料理を担当しているスーダン人男性は、油がグツグツ煮たっている大きな鍋の中へ下処理した魚をどんどん放り投げています。カリッと上がった魚を手際よく鍋から引き揚げ、盛りつけています。

揚げたての魚はプリプリ、カリカリしていて、なんとも言えません。塩をつけて食べるのもよし、レモンを絞って食べるのもよし。ナイル川で捕れた新鮮な魚を味わえる穴場スポットです。セナール州へ出張のある方は、ぜひ、道中立ち寄りてみてください。



編集後記

約1ヶ月のラマダンも、まもなく終了。各方面においていろいろな影響がでたようですが、ハルツームは平穏でなによりでした。次号は10月です！

JICA Sudan News Letter/vol.3
JICA Sudan Office
House#14, Block#10, St.49
Amarat, Khartoum, Sudan

発行：広報担当